

鹿児島県の自然災害伝承碑を知ろう！

自然災害伝承碑ってなに？

自然災害伝承碑とは、過去に発生した自然災害（洪水、土砂災害、地震、津波、火山災害等）の様子や被害状況が記載されている石碑やモニュメントのことです。

これらの碑は被災場所に建てられていることも多く、過去にその土地で、どんな災害が起こったかを知ることができます。

今回は鹿児島県にある自然災害伝承碑を3つ紹介します。



① 平成5年「鹿児島豪雨災害」

今から紹介する2つの伝承碑は、平成5年6月から9月にかけて本県を襲った集中豪雨を忘れないために建てられたものです。

この災害では、家屋損壊、床上・床下浸水、道路損壊等、被害総額3,000億円にものぼるたくさんの被害が確認され、121名もの大切な命が奪われました。

(ア) 鹿児島市竜ヶ水

「写真-1」は鹿児島市のJR竜ヶ水駅に建てられている伝承碑です。「写真-2」のように、JR竜ヶ水駅周辺では、当時、立て続けに土石流が発生、通行者2,500名が孤立化し、4名の方が亡くなりました。

このような災害が繰り返されないことを願うと同時に、昼夜にわたった関係者の助けによって、44日ぶりにJR日豊本線が開通したことを記念して「災害復旧記念碑」が建立されました。



写真-1 竜ヶ水災害復旧記念碑



写真-2 平成5年竜ヶ水地区被害状況

(イ) 始良市触田川

「写真-3」は始良市のサポーランドパーク始良に建てられている伝承碑です。「写真-4」のように、付近では、シラス斜面が延長約1.5km、高さ30～40mにわたって崩れ、触田川に多くの土砂や倒木が流出する「土砂・洪水氾濫」が発生しました。

この災害が起こった場所に、「砂防公園」が整備され、災害の教訓を忘れることがないように「災害復旧記念碑」が建立されました。



写真-3 触田川災害復旧記念碑



写真-4 平成5年触田川被害状況

③ 平成9年「針原川土石流災害」

「写真-5」は平成9年7月の大雨により出水市針原川で起こった、土石流災害の様子です。

この土石流では、21名もの犠牲者を出しました。

このような災害が起こったことを、多くの人に知ってもらい、犠牲となられた方々のご冥福を祈り、二度とこのような災害が起こらないことを願って、「針原川災害復興記念公園」を整備し、「写真-6」、「写真-7」のように、災害の経緯を記した、「慰霊碑」や「記念碑」が建てられました。



写真-5 平成9年針原川被害状況



写真-6 針原川慰霊碑



写真-7 針原川記念碑

詳しくはこちらから確認できます。

国土地理院 自然災害伝承碑 HP: <https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>

